



第三中学校だより

校訓

○健康な体

○豊かな心

○たゆまぬ学習

学校教育目標

気づき・考え・挑戦する ～新時代を生きる力を創造する～

和光市立第三中学校 〒351-0104 埼玉県和光市南2-2-1
Tel 048-461-3306 ホームページ <http://3chu.wako-city.ed.jp/>
相談室 TEL048-461-6698

令和7年2月3日発行

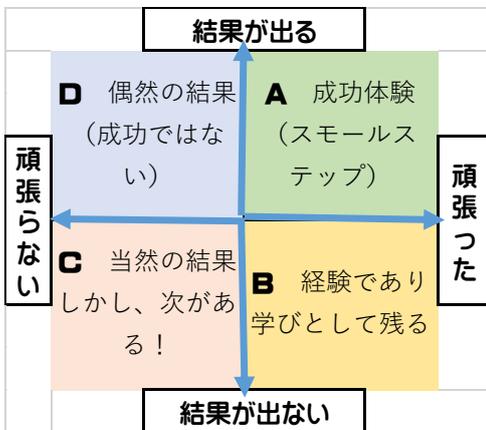
習慣の見直しと「平常心」

校長 近藤 克代

毎月の学校便りの巻頭ページは、校長としての思いや考えをつらつらと書かせていただいています。何を書こうかと考える前に、必ず前年度の同時期を読み返すのですが、昨年のタイトルは「平常心」でした。そして、「立春」についても触れていました。実際には、まだまだ寒さが続き、春は少し先ですが、今年の立春は、2月3日です。二十四節気において春の始まりであり、1年の始まりである日とされています。そして、この日を境にあらゆる生物(動植物)たちは、迎える春の為に動きはじめています。そう考えると、生徒たちにとっても、各々の年齢・学年において、迎える春(4月)に向けた準備が本格的になり、自身の成長を示すために動き出す時期が、立春を迎えた今なのです。しかし、新しい事が始まるまでは、自分の未来が明確ではないため不安になったり、焦ってしまったり、いつもと違う事をしてしまいがちです。ゆえに、節目である「立春」は大事な時期であると考え、今年も同じように希望を込めて、昨年度の2月号と同じくタイトルの一部を「平常心」にしました。



給食の様子。担任と楽しく食べています。



話は変わりますが、10月号の学校便りにて、私の趣味のスポーツ観戦、特に野球が好きである事をご紹介しました。そのつながりではありますが、先日、仙台育英学園高等学校野球部顧問の須江航氏の講演会に参加しました。105回夏の甲子園大会で優勝をし、優勝監督のインタビューで、「青春ってすごく密なので」という表現でコロナ禍の中、高校生達の気持ちを代弁しました。この言葉は、まだ記憶に残っている方もいるのではないのでしょうか。講演会の中で、“結果における自分の頭と心”について『結果が出る』『結果が出ない』の縦軸と「頑張った」「頑張らない」の横軸にして説明をしていました。図(講演を聞き、校長が作図したものです。)が示すBから“頑張った

が結果が出なかったので失敗と捉えがちであるが、これは決して失敗ではなく、次に結果を出すための分析材料となる。ゆえに失敗をしっかり許容する事が次の結果に確実に繋がっていく。むしろ、Aは成功した結果であるが、成功した背景には、時間や環境、人等が偶然(優位)に重なった場合もあるので、Dと同様であるが、DがAと勘違いしてしまう事もある。”と話をしてくれました。更に、“童話「ウサギとカメ」の話をしなが、ウサギは他(カメ)を意識し、一方のカメはゴール[目標]だけを意識していた。”と説明を加え、『結果を出すには、人と比べるのではなく、過去の自分と今の自分を比べ、何をすべきかを考える(主体的に考える)。そして、考える事ができるようになるためには、日々の習慣である。』この言葉が、最も心に刺さり、私自身をもう一度見直した瞬間でした。

早いもので、今年度も残りあと僅かです。3学期の始業式には、今学期は新しい年への0学期であると話をしました。そのためには、まず、日々の日常を大切に、当たり前な事を当たり前でできること。今年度の残り少ない学校生活から、気づき、考えてほしいと思います。

最後に、須江先生は『環境を与えて待つ』とも話していました。人を育むには「待つ」。これが一番大切。でも一番難しい。私はそう思い、「平常心」の意味をもう一度考え直しました。